

### 1. 危機管理の徹底について

今年、昨年より16日早く、5月の梅雨入りとなりました。雨の日も多くなり、地域によって集中豪雨が発生しています。子どもたちにとって、登下校中の通学路や教室・廊下等が滑りやすくなるなど、事故のリスクが高まることが考えられます。

近年は、大雨に伴う警報が発表される日も増え、今月2日には、奈良県でも大雨洪水警報と土砂災害警戒情報が発表され、最大級の警戒が呼びかけられました。

当日は、通学途中の警報発表に加え、午後以降に降雨量が増すことが予想されたことから、臨時休業の判断をしました。保護者や地域から判断が遅かったのではとのご意見は、市教育委員会としても真摯に受け止めています。昨今の急激な気象の変化に対しては、柔軟な対応も必要であると考えています。今回の経験を教訓に、今後も総合的に判断していきます。

警報時等における登下校の在り方については、各学校で対応マニュアルが作成されています。改めて、対応マニュアルが機能しているか確認し、子ども達への周知とともに、保護者や地域の見守り隊の方々とも共有し、平時より子ども達の安全・安心を守る取組をお願いします。

### 2. 学校訪問から感じたこと

先月より、学校訪問を行っています。子どもたちの様子を参観し、短時間ですが、学校の様子や地域の様子などについて意見交換しています。

ある学校で「最近の先生」の話題になりました。学校長が感じている最近の先生は、「子どもと向き合うより、保護者の対応に割く時間が増えてきているのではないか。」ということでした。

私からは、「子どもたちが自ら主体的に考え、将来社会で生きていく力を身につけさせることは大事だが、教員こそ自分を大切にすることが重要だ」と話しました。教員が、落ち着いて現状を整理したり、教職員間でコンセンサスを取ったりする時間を確保することも大切だと考えます。

また、最近の長期の特別休暇（病休）を取られる先生の傾向を見ると、前任校ではできていたことが今年度着任した学校でうまくいかず、一人で抱え込み心身ともに体調を崩したり、保護者対応に不安を感じて気持ちがしんどくなったりすることが多くなっているように感じます。

コロナ禍を経て、コミュニケーションが不足しているのは、子どもたちだけではなく教員間にも言えるかもしれません。

### 3. 教員の育成について

「教育は人なり」という言葉があります。学校で子どもたちを育てるのは教員にほかならず、その教員を育てる一翼を担っているのが、学校長です。教育の先輩として、人生の先輩としての、経験に基づいた意見や助言は、教員にとっては人生の羅針盤であり、大きな励みになります。ぜひ、普段から「教員を育てる」という視点での言葉がけをお願いします。

教育委員会でも、教職員研修で多様な講座を開設し、それぞれのステージに応じた研修で、教

員に求められる資質能力の確実な習得の支援をしていきます。本市独自の教員個別訪問研修や、実践的な研修講師を招き、対面やオンライン、オンデマンドを活用した効果的・効率的な研修を行っています。積極的に受講を促し、教員の研修の機会を確保してください。

学校長には、教員一人一人としっかりと対話し、実態を把握するとともに、それぞれの個性や専門性を生かした魅力ある教員の育成に努めてください。教員自身が自己成長の必要性を認識し、意欲的に学び続けられる働きかけをお願いします。

最後に、蒸し暑い日が多く、疲れがたまる時期でもあります。教員はもとより、学校長自身の健康管理にも気をつけ、充実した一学期の取組となるようお願いします。